

歴史探訪

社文書によると「本紙繪図面大阪廳ヨリ本省江伺二相成 明治九年一月廿四日 伺之通り指令済二相成候旨 同年二月三日於府廳戸籍課承知之(本測量図面を大阪府庁より本省へ伺いを立て、明治九年一月二十四日に伺の通り承認されたこととを、同年二月三日府庁戸籍課においてこれを確認)」とあり、国に承認され、新しく公園地が確定したことがわかります(図②)。

一方、公園管理に関する条例が初めて大阪府布令集に記載されたのは、同十五年(一八八二)十月十三日の公園地内取締規則と、同月二十六日に出された公園取締人心得です。この規則と心得が内務省に認められた最初のものであると考えられます。本誌第22号の「神職による公園地取締人」にあるように、同七年(一八七四)に住吉大社から公園地取締人を選出し大阪府へ届け出ていますが、大阪府からの正式な辞令が同十七年(一八八四)九月十六日となったのは、同七年時点は大阪府に辞令を出す規則がなかった為と考えられます。この時期は公園管理をめぐって政府と東京府の間には意見の相違があり、同八年二月になって公園地に貸地を認めることで決着を見

ます。具体的な公園地貸地の規則としては、同十一年(一八七八)十月八日に作成された東京府公園地内出稼仮条例で、国に初めて条例として認められたものと考えられます。東京府は、この条例に基づいて浅草公園から公園地の整理、整備に着手していくことになります。

当然この間においては、地方からの公園管理規則に承認の返答がなかったと思われる。その後、大阪府は東京府公園地内出稼仮条例を参考に、公園地内取締規則を作成しています。その他の都市でも同様に、東京府の条例を参考にした規則が作成されたと考えられます。

これにより、明治九年(一八七六)一月二十四日の公園区域の確定、同十五年(一八八二)十月十三日の公園地内取締規則の施行により、大阪府における実質的な公園管理行政の第一歩が始まった事になります。

最後に、東京府公園地内出稼仮条例と大阪府の公園地内取締規則の関連性を見るために、条例と規則を記しておきます。

(荒木美喜男)

図② 住吉大社文書『明治六年八月旧社地之内上地之区别書』より住吉大社に残されている冊子で、表書きに「明治六年八月旧社地之内上地之区别書 住吉神社主典 橋本光全」とあり、同6年の公園指定から同8年10月の公園地と住吉大社分離の経緯が分かる書類としてまとめられています。図は測量図が本省に送られた内容を記したものです。

第一条

凡ソ公園地内に出稼セムト欲スルモノハ建家築造の模様等詳細図面ヲ作り地所拝借ノ義願出ツベキ事 但公園ハ衆庶借楽ノ場所ナルヲ以テ建物ハ成丈ケ雅致ヲ添ヘ景色ヲ損セザル様注意可致且ツ落成ノ上ハ掛リ官員ノ検査ヲ受クベキ事

第二条

本府ニ於テハ詮議ノ上実施差支ナク且園内ノ繁盛ヲ助クヘキモノト思量スルハ相当の借地ヲ許可スベキ事

第三条

借地許可後三十日以内ニ現場着手セザルモノハ直チニ返地セシムベキ事 但借地料ハ居住ノ有無ニ拘ラズ第十二条ノ割合ヲ以テ徴収スベシ

第四条

借地ノ内タリトモ建物ヲ自儘ニ取壊グルハ勿論模様替ト雖モ許可ノ上ニ無シテハ着手不相成事 但雨漏修繕ハ此限ニテアラズ

第五条

出稼ノ家屋ハ他ノ住居同様垣牆ヲ周ラス等八箇ク不相成等ナレドモ實際止ラ得ザル場合有之ニ於テハ出願ノ上掛官員ノ差圖ヲ受クベキ事

第六条

出稼常任住人ノ外ハ一切宿泊不相成事 常住出稼人其人員姓名居住後三日間二可届出事 但出入其都度届出ベシ

第七条

夜間ノ營業ハ当分午後十二時限ノ事

第八条

借地内ト雖モ立木ハ其大小ヲ不論伐採或ハ植替等一切禁止ノ事 但私費ヲ以テ樹木植栽致度節ハ其時々伺出事

第九条

借地内ハ勿論其近傍ト雖モ借地人ニ於テ時々草取掃除致シ不潔ナラザル様注意可致事

第十条

借地内ノ溝渠ハ塵芥ヲ棄テ或ハ淤滞スルモノハ其大小ヲ不論伐採或ハ植替等一切禁止ノ事 但私費ヲ以テ樹木植栽致度節ハ公園取締人申合掃除スベシ且ツ強風ノ節ハ勿論常ニ往來ヘ水ヲ瀧キ塵埃散セザル可致事

第十一条

借地料ハ八十五日以前許可ノモノハ全月分十五日以後許可ノ者ハ下半月分ヲ上納可致事 但返地モ本文同様十五日前後ヲ以計算スベシ

第十二条

借地料ハ毎月廿八日限り無相違区務所ヘ可差出事 地所借用ノ儀一旦許可スト雖モ園中都合ニ因リ引払ノ儀相違候節ハ其種類ニ応ジ日数二十五日以上五十日以内ニ建家取毀チ元形ニ直シ返地可致事

第十三条

借地料ハ八十五日以前許可ノモノハ全月分十五日以後許可ノ者ハ下半月分ヲ上納可致事 但返地モ本文同様十五日前後ヲ以計算スベシ

第十四条

借地料ハ毎月廿八日限り無相違区務所ヘ可差出事 地所借用ノ儀一旦許可スト雖モ園中都合ニ因リ引払ノ儀相違候節ハ其種類ニ応ジ日数二十五日以上五十日以内ニ建家取毀チ元形ニ直シ返地可致事

第十五条

借地料ハ八十五日以前許可ノモノハ全月分十五日以後許可ノ者ハ下半月分ヲ上納可致事 但返地モ本文同様十五日前後ヲ以計算スベシ

第十六条

借地料ハ八十五日以前許可ノモノハ全月分十五日以後許可ノ者ハ下半月分ヲ上納可致事 但返地モ本文同様十五日前後ヲ以計算スベシ

第十七条

借地料ハ八十五日以前許可ノモノハ全月分十五日以後許可ノ者ハ下半月分ヲ上納可致事 但返地モ本文同様十五日前後ヲ以計算スベシ

(大阪府)公園地内取締規則 明治十五年十月十三日

第一条

凡ソ公園地内ニ於テ營業ヲ爲ント欲スル者ハ別紙願書式ニ據リ建家築造ノ模様等詳細図面ヲ作り地所拝借ノ義戸長及公園取締人奥印シ郡區役所ヘ可願出事

第二条

公園ハ衆庶借楽ノ場所ナルヲ以建家八成丈ケ清潔ヲ要シ風景ヲ損壊様注意致し建物落成ノ上公園取締人ヲ經テ郡區役所ヘ可願出事

第三条

借地許可後三十日以内ニ現場着手セザル者ハ直ニ返地セシムベキ事 但借地料ハ居住ノ有無ニ拘ラズ第十二条ノ割合ヲ以テ徴収スベシ

第四条

借地ノ内タリトモ建物ヲ自儘ニ取壊グルハ勿論模様替ト雖モ許可ノ上ニ無シテハ着手不相成事 但雨漏修繕ハ此限ニテアラズ

第五条

營業ノ家屋ハ他ノ住居同様垣牆ヲ周ラス等八箇ク不相成等ナレドモ實際不致止場合有之ニ於テハ更ニ可願出事

第六条

常住ノ營業人ハ其人員姓名ヲ居住後三日間二可届出事 但出入其都度届出ベシ

第七条

營業常任住人ノ外ハ一切宿泊不相成事 夜間ノ營業ハ午後十二時限ノ事

第八条

借地内ト雖モ立木ハ其大小ヲ不論伐採或ハ植替等一切禁止ノ事 但私費ヲ以テ樹木植栽致度節ハ公園取締人及シテ戸長奥印ノ上郡區役所ヲ經テ當廳ヘ可願出事

第九条

借地内ハ勿論借地内ノ溝渠ハ塵芥ヲ棄テ或ハ淤滞スルモノハ其小ヲ不論伐採或ハ植替等一切禁ノ事 但私費ヲ以テ樹木植栽致度節ハ公園取締人及シテ戸長奥印ノ上郡區役所ヲ經テ當廳ヘ可願出事

第十条

借地内ハ勿論借地内ノ溝渠ハ塵芥ヲ棄テ或ハ淤滞スルモノハ其小ヲ不論伐採或ハ植替等一切禁ノ事 但私費ヲ以テ樹木植栽致度節ハ公園取締人及シテ戸長奥印ノ上郡區役所ヘ可願出事

第十一条

公園借地料ハ敷地一坪二付一ヶ月金貳錢ヅクトシ十五日以前許可ノ者ハ全月分十六日以後許可ノ者ハ下半月分ヲ上納可致事 但返地モ本文同様十五日前後ヲ以テ計算スベシ

第十二條

借地料ハ八十五日以前許可ノモノハ全月分十五日以後許可ノ者ハ下半月分ヲ上納可致事 但返地モ本文同様十五日前後ヲ以テ計算スベシ

第十三條

公園借地一旦許可スト雖ドモ萬一園中ノ都合ニ依リ引拂ヲ命スルトキハ其種類ニ應ジ日數三十日以内ニ建家取毀チ元形ニ復シ返地可致事

第十四條

前條借地ヲ轉賣スルハ嚴禁タリ故ニ私費建設ノ家屋賣買ハ本人ノ自由ニ任スト雖ドモ其儘後任ノ者ヘ譲渡サント欲スルトキハ雙方連署第一條ノ手續ニヨリ返地更借トモ可願出事

第十五條

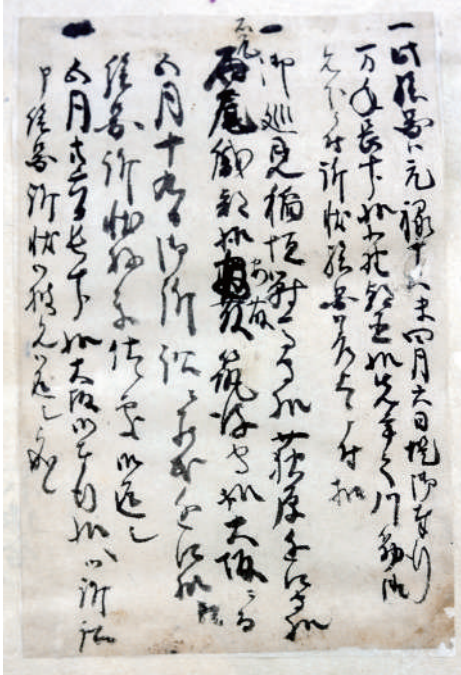
公園内ニ迷入又ハ變死人アルトキハ直ニ取締人戸長ノ中へ通知スベキ事

第十六條

前條ノ趣意ニ違背スル者ハ日數十日以上廿日以内ヲ限り引拂可申付事



発行日:2025年6月1日(季刊:3月・6月・9月・12月発行)
明治6年に開設して150周年を迎えた大阪府営住吉公園の歴史探訪誌として、2018年12月から季刊で第16号まで発刊してまいりました。2023年7月刊の『住吉公園と住吉さん』編纂による一時休止後、2023年12月より再刊しました。ぜひとも住吉公園、大社界隈の悠久の歴史地理をご堪能ください。



裏書の現代文訳
この絵図は、元禄16年(1703)4月6日 堤御奉行である万年長十郎様と小野朝之丞様が、以前行った川筋(河川の流れや堤防)調査に関連して、訴状および絵図を提出した際の控えとして残されたものです。

一、巡見使として派遣されていた稲垣対馬守様・荻原近江守様・石尾織部様・安藤筑後守様が大阪に滞在中の5月19日に、訴えを申し立て、荻原近江守様に絵図と訴状を提出しましたが、受理されず返却されました。

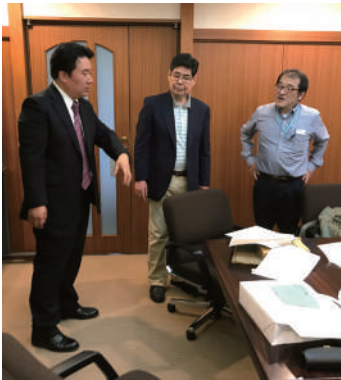
一、5月26日、万年長十郎様が大阪町奉行に対して正式に訴訟を申し立て、絵図と訴状を提出しましたが、これも閲覧されたうえで返却されました。

編集委員 寺田孝重さんを偲んで

本誌編集委員で、農学博士、一般財団法人荻田土地記念改良コミュニティ振興財団・代表理事の肩書をお持ちの寺田孝重さんが、去る三月一日、ご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

寺田先生が本誌の編集委員をお引き受けくださったきっかけは、下載の「狭山池水系大絵図」の撮影にあります。編集代表の私が平成二十八年(二〇一六)当時、大阪市立大学地域連携センターの副所長として、大学と地元との交流を進めるなかで寺田さんと面識を得て、この絵図撮影が実現したことが始まりでした。

大阪府営住吉公園の管理者である福田久美子氏から、住吉公園開設一五〇年記念事業として、公園の歴史にまつわるフリーペーパー発行の相談を受け、寺田先生との出会いやこの絵図の存在を思い出して相談したところ、住吉公園関連の測量図や文書が存在を教えてくださいました。平成三十年(二〇一八)五月に、住吉大社の当時権禰宜・小出英詞氏や、NPO法人国際造園研究センターの繁村誠人氏とともに、荻田土



地改良記念会館にて初めての意見交換を行いました。写真はそのときのひとコマです。寺田家に継承される十六世紀末から江戸・明治に至る文書群である「寺田家文書」に記された情報の豊かさに圧倒され、フリーペーパー実現への期待が一気に高まったことを今でも鮮明に覚えています。

同年十一月には、季刊『住吉公園歴史探訪』(全4面)として刊行が実現しました。誌面では、寺田さんが専門の植物と地域文化を関連付けた内容で、本企画を豊かに彩ってくださいました。今回は「令室 菜摘様へのインタビュー」も交え、寺田さんを偲ぶ一文といたします。

(水内俊雄)



狭山池水系大絵図
(解説) 狭山池および石川・東除川・西除川を中心とした、和泉・河内・摂津の三国にまたがる水系図で、新大和川が描かれていないことから、元禄以前の江戸初期に作成されたものと推定される。狭山池博物館の資料によると、類似の絵図が大依羅神社などにも現存しており、原図はこの水系に入る村々で所蔵されていたものと考えられる。とくに本絵図は、裏書にあるように、元禄16年(1703)に行われた大和川付け替えに対する反対運動の資料として使用されたもので、付け替え予定の川筋が白い紙で貼り付けられており、生々しい様子を伝えています。 寺田家文書・絵図編

発行：都市公園住吉公園指定管理共同体
(株式会社美交工業・NPO 法人釜ヶ崎支援機構)
お問い合わせ：住吉公園管理事務所 電話 06-6671-2292

編集委員：水内俊雄(代表、大阪公立大学)、小出英詞(住吉大社)
寺田孝重(荻田土地改良記念コミュニティ振興財団)
繁村誠人(NPO 法人 国際造園研究センター)
櫻田和也(NPO 法人 remo 記録と表現とメディアのための組織)
荒木美喜男(大阪府庁公園 OB)



植物や地域文化への造詣

『住吉公園と住吉さん』（東方出版、二〇二三年）では、寺田さんの原稿をまとめて第5章「植生や地形から見える風景」を設けています。寺田さんが常に仰っていたのは、「住吉と松」であり、マツについてはまだまだ原稿をお願いできそうな様子でした。縄文海進にまでさかのぼり、上町台地の基本植生がマツであり、それがまるで巨大な天橋立のようであったこと、「松と鳥居」があれば社殿がなくとも住吉大社を想起させること、そうした松の風景が絵画・文学・工芸の中で長く描かれてきたことなどを、絵図や写真とともに紹介していただきました。（下絵図・写真参照）

「御田」の雑草群の連載

さらに印象的だったのは、住吉大社の「御田」に見られる植物への着眼です。古代より神事として守られてきた水田である「御田」には、非常に貴重な植物相が残されており、農耕地は同じ場所と同じ技法により作り続けられることで、周囲の環境が変わってもその植生は変わらず育まれる、その典型が「御田」に随伴する雑草群であるという視点から、ハコベを起点とする連載が始まりました。

随所にエピソードを交える魅力的な筆致で、七草のオギヨウ、ホトケノザ、ナズナ、セリ、スズナ、スズシロへと話題が続き、その中でなぜかヒガンバナが欠けていることにも触れられました。

水辺の植物の連載

住吉区の「区の花」であり、浅沢社での群生でも知られるカキツバタや、低山地や社叢に見られる卯の花といった植物も紹介されました。連載では、大阪市の市章「澤標」が葦原の中の水路を示す表示板に由来するところから始まった、水辺の植物シリーズも印象的でした。アシ・ヨシの紹介（第18号）、マコモ（第19号）、ハス（第

20号）、ガマ（第21号）へと続きます。次号で取り上げると言われた、チガヤがどのような内容になったのか知ることは叶いませんでした。カサゲ（第22号）が最後の原稿となりました。

この連載の魅力は、こうした水辺の植物が工芸品や生活用品、宗教的用途として重宝されていたこと、小物成年貢という雑税として、寺田家文書に關係する村々にその記録が残されており、その解説が付されたことでした。

アシについては、庄屋を兼務していた七道村の年貢として文書で紹介されており、絵図、文書を用い、手水川との関連に触れました。マコモについては、依網池周辺の生育が多く、我孫子村との間で税金をめぐって争われた調停文書が紹介されました。

ハスについては、依網池の絵図に、池の象徴として見事に描かれた蓮花の姿が印象的でした。住吉大社の池とも深く関わる植物です。

最後のカサゲについては、浅沢社の祓神事に使用する神菅としての試験栽培を始められた経緯が語られました。

寺田さんのキャリア

令和七年（二〇二五）四月十四日、本誌にて寺田さんの追悼記事を執筆させていただきましたにあたり、奥様の寺田菜摘様に、寺田さんの思い出についてインタビューをさせていただきました。告別式の際、奥様が喪主として述べられた弔辞の言葉に深く感銘を受け、七七歳にてお亡くなりになってしまわれた寺田さんのことをもつと知りたいという思いが強まったことも、このインタビューの実施の背景にありました。

インタビューでは、寺田さんが開発された「天平茶」を、茶道の師範であられる奥様から頂きました。寺田さんは、静岡大学農学部大学院を修了された後、奈良県庁の茶業試験場に就職されたこと、東大寺の社領における茶園の存在から、茶花の研究にのめり込まれていたこと経

緯などが語られました。そして平成七年（一九九五）、名城大学より「奈良県における茶業発達過程の研究」という学位論文で博士（農学）を授与されたこと。興味を持たれたことには根気強く取り組み、刈田村寺田家文書研究会を立ち上げられ、膨大な寺田家文書の整理に尽力されました。※1

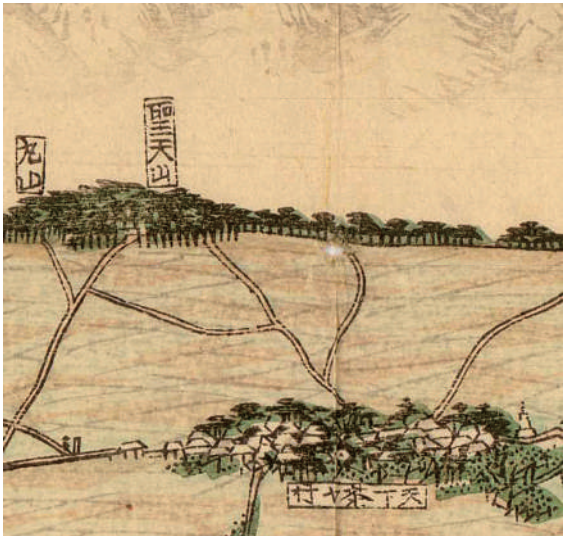
寺田家はかつて高槻藩の所領でもあり、明治維新时期に土地を没収され、田畑を失ったため、代々サラーマン家庭で育たれました。怒った



浪華新丘圖 (部分)

上町台地崖沿いに描かれた松、右絵図はテヅカ山（帝塚山）の隣にキシノヒメ松（岸の姫松）、左絵図は下写真に実景の聖天山や天下茶屋の松が描かれ、その下方に天下茶屋集落、背景に生駒・信貴の山影が描かれています。浪華新丘圖 (1839年)、日文研所蔵地図データベースより

上田貞治郎写真史料アーカイブ (大阪公立大学) に見られる天下茶屋 (左)、聖天山 (右) の松樹、編集部にて着色。
原版では、野々村藤助アルバム、明治34年とあり、「天下茶屋近傍」「聖天山麓 三月一日」との説明がある。

明治初期の公園管理3
(大阪府の場合)

本誌第21号で地方の公園申請と、それに対する国からの指令を見ました。国の指令は実測平面図と管理規則の提出でした。記録はありますが、大阪府に対しても同様の指令があったと考えられます。明治六年（一八七三）九月に大阪府の公園地規則が作成されており、大蔵省に送付されたと思われます。ただ、この公園地規則は大阪府布令集には記載されていませんので、法令として認知されていないことになりました。それでは大阪府は何に基づいて公園を管理していたのでしょうか。

本誌第22号で述べたように、大阪府は明治七年（一八七四）一月に東京府に対して公園管理についての問い合わせを行っています。

一、公園地ノ義御取扱向、都テ於「御府」御取締有之候哉ノ事。

附、其品ニ寄リ神官僧侶ニ而取扱候儀モ有之候や。右品々其取扱之廉承知致度候。（公園地の取り扱いについて全て、府で行っているのか、もし神官僧侶に取り扱わせているものがあればという点か教えてほしい）

二、公園地ノ内ニ於テ、或ハ茶店等取扱又ハ遊芸興行之為メ、小屋掛等取設候節ニハ、適宜ヲ以相当ノ税金御取立相成候ヤノ事。

附、右御取立ノ税金ハ、公園地手入等ノ入費ニ加充相成候や又ハ上納ニ相立、公園地入費ハ別途御下渡相成候や、其辺モ承知致度候。（公園地内において茶店、遊芸の小屋掛け設置に対して税金の取立てを行っているのか、税金は公園地手入の入費のそのまますま充当しているのか、または上納して別途下り渡りになるのか教えてほしい）

三、公園地ト社寺現在ノ余地境界区別相立居候義ハ勿論ニ候得共、多分地価ノ場所又ハ入組ノ場所等自然可「有」之歟。右ニ付御取扱向「有」之候ハ、致承知「度候事。（公園地と現在の寺社境内の区域は調整されているか、地価の高いところや入組みに対して、その取り扱いについての考え方があれば教えてほしい）

しい）

四、公園地、郡村市街ノ内ニ有之ニ就テハ、担当ノ官員御差遣候義モ有之候ハ、承知致度事。（公園地が郡村市にある場合、担当官員を差し遣わしているのであれば、どのようにされているのか教えていただきたい）

五、公園地内樹木名石其外敷松林等モ有之、見廻リノモノ御申付置有之候ハ、給料又ハ御手当被「下等」ノ義モ致「承知」度候事。（公園地内の樹木、施設の見回りに人を割り当てているのであれば、給料、手当はしているのか教えてほしい）

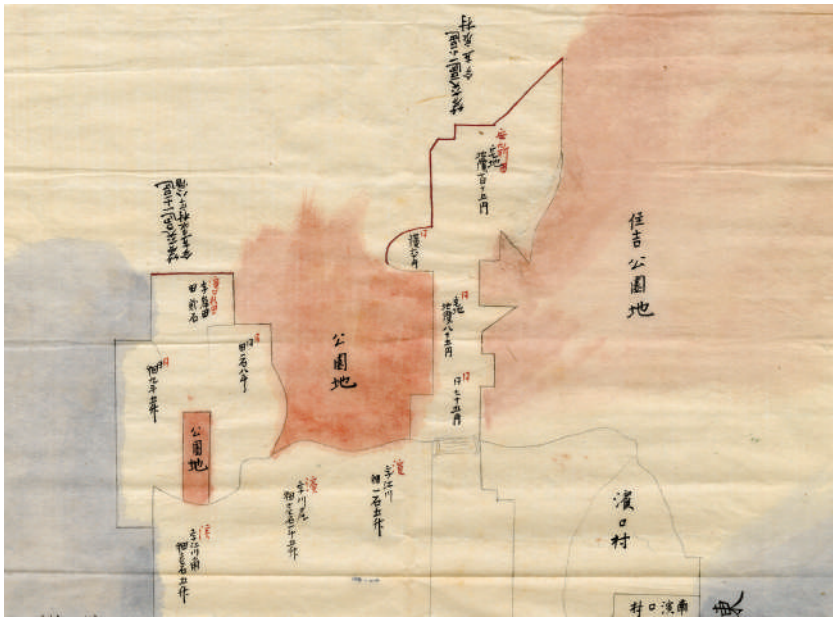
「ここでは、公園管理の在り方、公園地と神社境内との境界の考え方を聞いています。

次に内容を詳しく見ていくことにします。最初に東京府の管理の考え方を聞いています。大阪府の公園地規則を見ますと第一条で公園地に住まう神官僧侶に公園の総取締的な役割を行うように書かれています。これが当初の大阪府の考えで、従来の神社境内の管理をそのまま引き継いだものと思われます。また、公園の取締りを東京府で行っているのかと聞いていることは、すなわち大阪府では府が直接行っており、神官僧侶に従来通りの管理を任せていたと考えられます。四番目に郡にある公園地に担当官員を派遣しているのかを聞いています。最初の問い合わせとも関連しますが、公園の総取締を神官僧侶に割り振りしていた大阪府では、官員の派遣を行っていなかったと考えられます。

二番目に公園地賃地の税金（区入費）の取り扱いについて聞いています。明治政府は明治六年七月の地租改正に先立ち、同年三月に「地所名称区別」を布告、翌七年十一月に改正され、公園は官有地第三種に位置付けられました。そこでは「地券ヲ発セズ地租ヲ課セズ、区入費ヲ賦セザルヲ法トスル。但人民の願ニヨリ右地所ヲ貸渡ス時者、其間地料及ビ区入費ヲ賦スベシ」と規定されており、地料とは別に区入費（地方税）の設定を認めています。

区入費は税金であるため、本来であれば大阪府税として納められたのに、費目を決めてから支出すべきものです。このとき、大阪府が敢えて聞いたということは、区入費を府税として納めず、公園の維持管理費に使用していた可能性があると考えられます。

三番目に公園地と神社境内地の区分けについて聞いています。明治六年（一八七三）八月に、住吉大社の全域が公園に指定されました。その後、同八年（一八七五）三月、同年十月の二度にわたる現地測量を行い、住吉大社境内地と公園地に分離されています（本誌第1号参照）。このことから、全域が公園地に指定されたことで、住吉大社の神事に何らかの影響が生じたと考えられます。寺田家文書には、同六年（一八七三）当初の公園区域、周辺民地の地価や田畑の



図① 寺田家文書 絵図-八〇 (部分)

明治八年（推定）大阪府第七大区二小区地位同等之耕作地絵図群のひとつです。同8年10月に行われた測量により公園地と住吉大社に分離されますが、この図面では同6年8月の公園地として指定された状態であり、測量図面が本省に承認される同9年または大阪府戸籍課に登録される同10年までの間のものと思われます。

石高を記した図面が残されています（図①）。この図面から公園地を指定するとき、なぜ大社境内地から田畑や宅地を民地として下げ渡し除外したか、当時の大阪府の考え方がうかがえます。

最後に公園の見回りの者に対する給料について聞いています。公園地規則では、掃除人に対する給料の記載はあることから、ここで聞いているのは公園管理の取締人のことで、すなわち神官僧侶に対して給料を支払っているのかを聞いているものと考えられます。住吉大社がこれまで管理していた従来通りの方法であれば、神官僧侶に給料を支払う必要がないと考えられていたのではないかと考えられます。

このように、公園管理に対して当時の大阪府は試行錯誤していた様子が見て取れます。

この大阪府からの問合せに対して、東京府は公園管理、特に公園地の貸し出しについて政府との間で意見の相違があり、大阪府に対して回答できる状態ではなかったため、「いまだ確たる方策とてもなく、民間の請負を考慮中である」として、代わりに商工会議所の経営案を送付しています。

つぎに、明治七年以降の大阪府の公園管理について、実測図面と条例作成について見ていきます。測量図面の作成については、先に述べたように明治八年（一八七五）十月に行われています。作成された実測平面図は、住吉大